




薬局サーベイランスの 活用例

2010年1月24日大日班会議報告資料より

平成21年度厚生労働科学研究費補助金地域健康管理研究事業
「地域での健康危機管理情報の早期探知、行政機関も含めた
情報共有システムの実証的研究」


研究代表者：国立感染症研究所感染症情報センター大日康史



2 保健所での感染症迅速情報(薬局 サーベイランス)の活用事例

西條 毅¹ 和田 行雄¹
大日 康史² 菅原 民枝²

1 京都府山城北保健所,
2 国立感染症研究所,



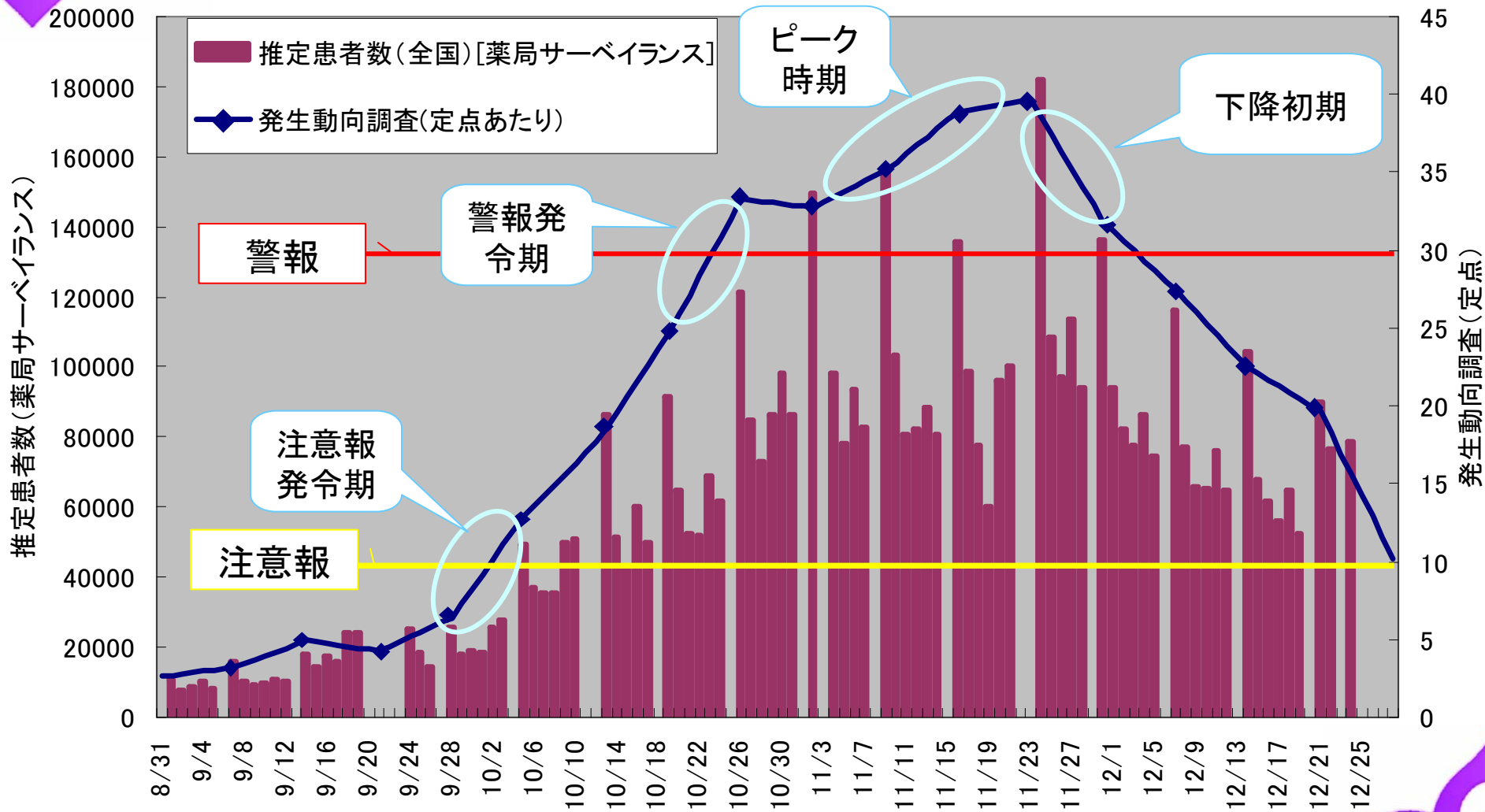
発表内容

- 今回の新型インフルエンザ対策を行う上で、当保健所として、薬局サーベイランスをどのように活用したか検証をする。

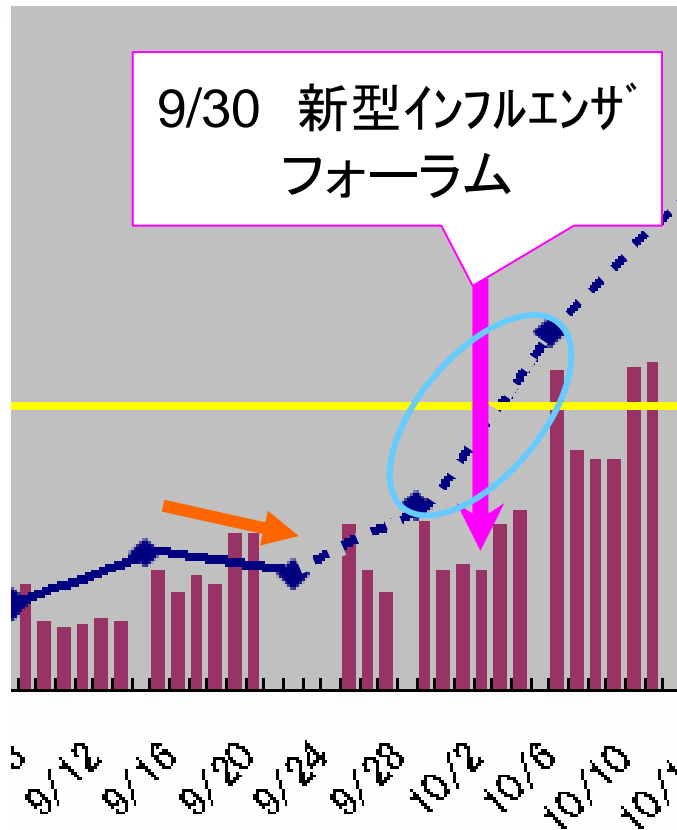
背景

- 保健所は、地域での感染症対策の要の機関として、常に最新の情報が求められている。
- 特に今回の新型インフルエンザのような世間が注目している感染症などは、頻繁に講演や対策会議が開催され、その都度、現状を説明しなければならない。
- 感染症状況の一致指標となりうる薬局サーベイランスの役割が求められる。

薬局サーベイランスと発生動向調査による報告推移 「特に保健所として注目した時期」



注意報発令時期での活用例



- 9/30に新型インフルエンザのフォーラムを開催
- 10/3地元医師会で新型インフルエンザ講演
- この時期、動向に注目している時期であった。
- この時点での発生動向調査では、下降を示していた。



注意報発令時期での活用例

The Kyoto Shimbun Web News

京都新聞

Kyoto Shimbun 2009年10月1日(木)

新型インフル防止策を学ぶ 精華で福祉や学校関係者400人

「新型インフルエンザフォーラム やましろ」が30日、京都府精華町光台のけいはんなプラザで開かれ、山城、乙訓地域の福祉施設や学校関係者ら約400人が、新型インフルエンザの大流行に備えた感染防止策を学んだ。

府山城広域振興局や各保健所などでつくる府山城地域対策本部が主催。府立医科大大学院の藤田直久准教授が講師を務めた。

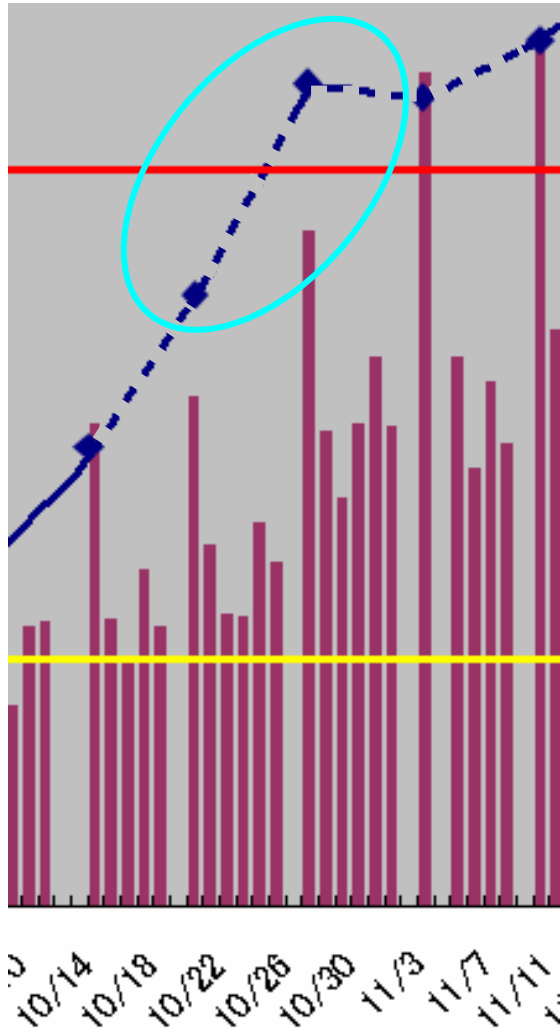
藤田准教授は、感染防止策として「せっけんと水で手をしっかり洗うことが重要」とアドバイス。「30秒間の手洗いでも手についた多くのウイルスを取り除ける」と効果を強調し、「日ごろから手洗いを続け、大人が子どもに手本を示そう」と呼び掛けた。

このほか、せきやくしゃみをする際には、服の袖口やハンカチで口を抑えてウイルスを周囲に飛散させず、感染者を増やさない工夫も伝授。「喫煙者はインフルエンザの抗体値が低下し、重症化する確率が高まる」と注意も促した。



新型インフルエンザの感染防止策を学ぶ
フォーラム(精華町光台・けいはんなプラザ)

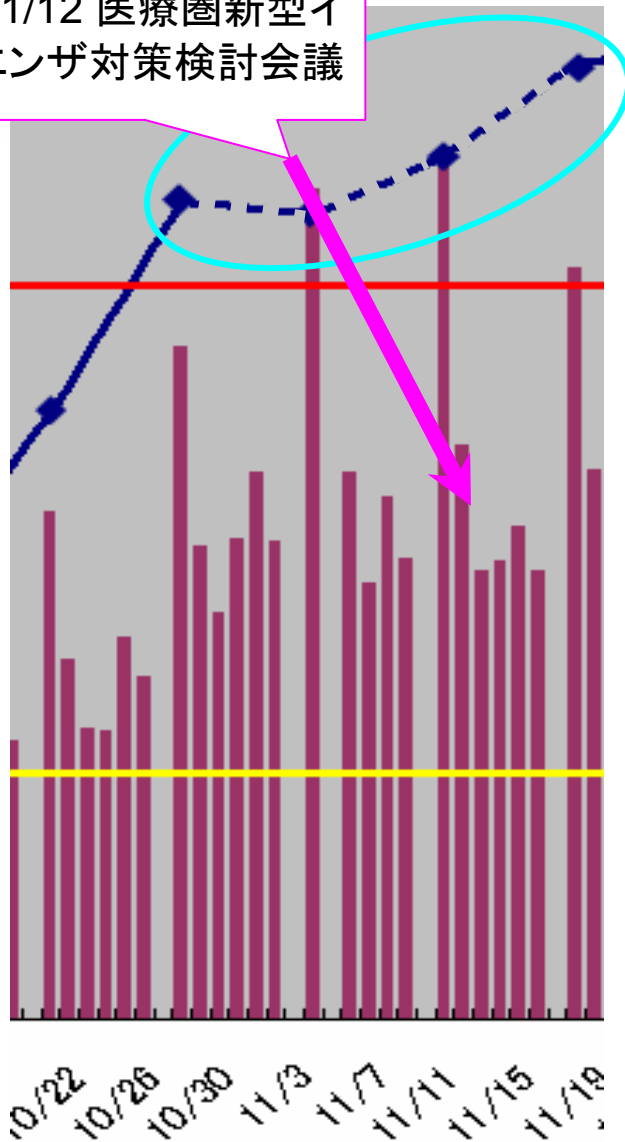
警報発令時期での活用例



- 10/22新型ワクチン説明会
- 11/2定例記者懇談会
- 発生動向調査では、警報が出ていない状況であった。

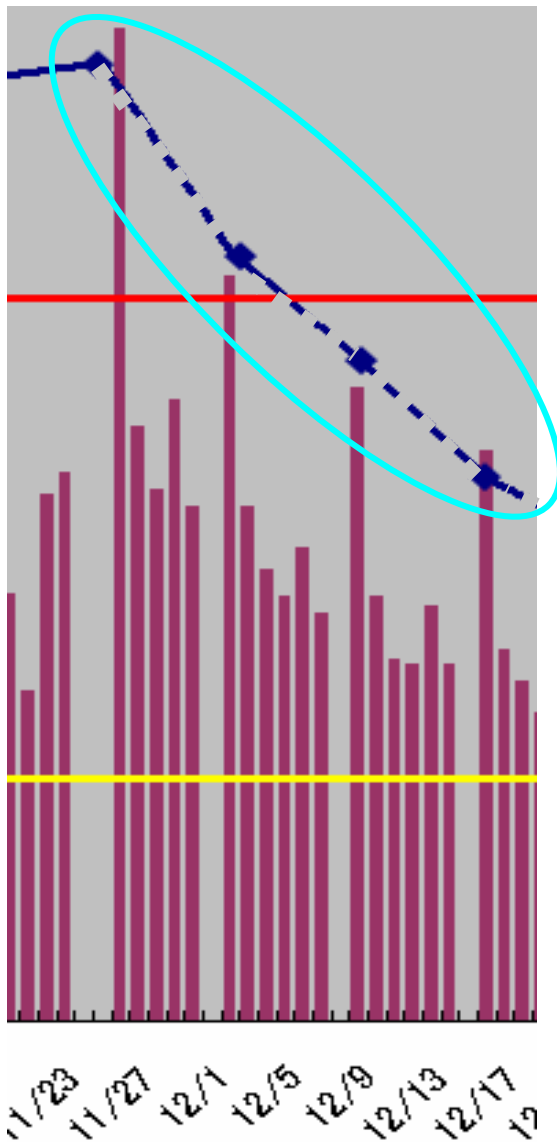
ピーク時期での活用例

11/10,11/12 医療圏新型インフルエンザ対策検討会議



- 11/10,11/12 医療圏新型インフルエンザ対策検討会議（医療部会）
- 発生動向調査では、急上昇を示していた状態であった。
- 11/6 ワクチン接種予約の報道により医療機関が混乱
- 11/10 新型インフルエンザについて緊急広報

下降時期での活用例



- 11月中旬以降、医療機関では、多くの外来患者の対応により困窮した状態であった。
- この状況下の中、医療機関でのワクチン接種は限界があるという意見のもと、市町、医師会と連携し集団ワクチン接種を検討

まとめ

- 今回の新型インフルエンザ対策では、常に現状に合わせて対策、対応がめまぐるしく変わった。
- このため、その都度、これからの先行きを予測し、対策を遂行していくことが求められた。
- 感染症発生動向調査だけでは、次のステップを検討する材料としては不足であったが、一致指標となる薬局サーベイランスを活用することで、目測を立てることができたと考えている。

まとめ

- 薬局サーベイランスは、京都府の感染症発生動向の指標として位置付けられていないものの感染症対策を行う上で知っておきたいデータであり、少なくとも、感染症担当、危機管理担当は、把握しておく必要があると考える。